

喫煙者本人への健康影響について

1 がん

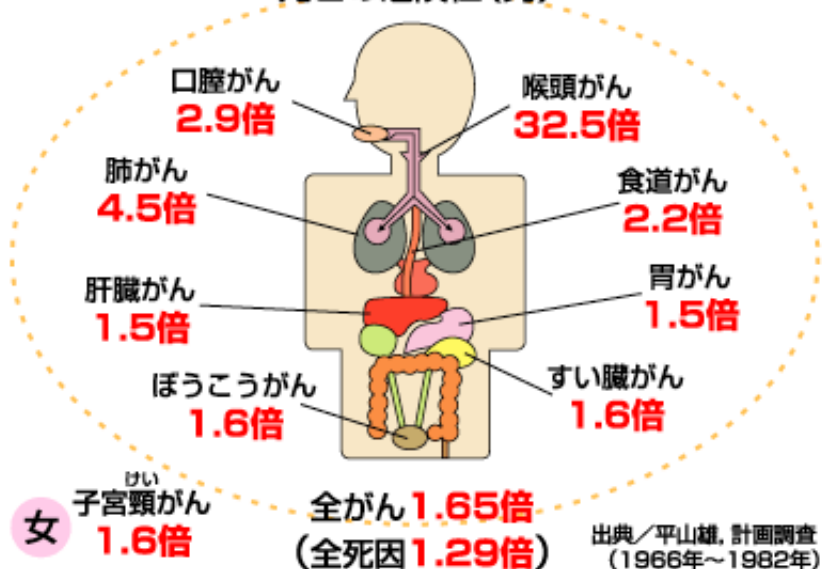
喫煙男性は、非喫煙者に比べて肺がんによる死亡の危険性が約4.5倍高くなっているほか、それ以外の多くのがんについても、喫煙による危険性が増大することが報告されています。

相対危険度：この資料では、喫煙者が非喫煙者に比べ病気等になる危険度が何倍高いか非喫煙者を1とした時の喫煙者の危険度で表示しています。

がんによる死亡の相対危険度

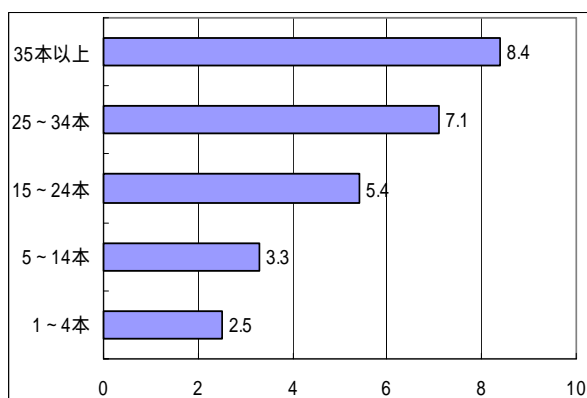
相対危険度	男	女
平山らによる調査(1966-82)	1.7	1.3
厚生省研究班による調査(1990-97)	1.5	1.6

非喫煙者と比較した喫煙者のがんによる死亡の危険性(男)

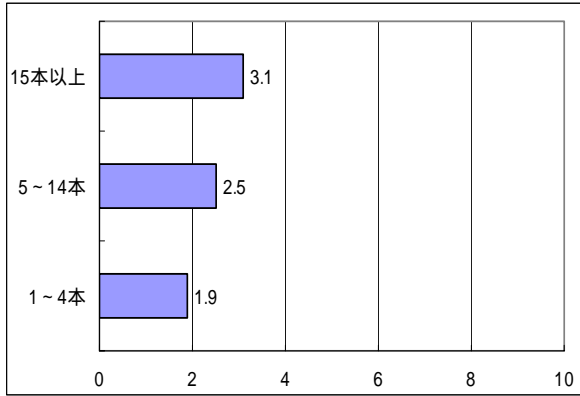


喫煙本数別にみた肺がん死亡についての相対危険度(日本)

【男性】



【女性】



資料：いずれも平山らによる調査(1966-82)

2 循環器病

喫煙者は、非喫煙者に比べて虚血性心疾患（心筋梗塞や狭心症等）の死亡の危険性が 1.7 倍高くなるという報告があります。

脳卒中についても喫煙者は、非喫煙者に比べて危険性が 1.7 倍高くなるという報告があります。

相対危険度：この資料では、喫煙者が非喫煙者に比べ病気等になる危険度が何倍高いか非喫煙者を 1 とした時の喫煙者の危険度で表示しています。

循環器病による死亡についての相対危険度

相対危険度	男	女
循環器病	1.4	1.5
虚血性心疾患(心筋梗塞、狭心症等)	1.7	-
脳卒中	1.7	1.7

(注) 数字は非喫煙者を 1 とした 1 日 20 本喫煙する者の相対危険度

資料：1980 - 90 年の循環器疾患基礎調査 (NIPPON DATA)

3 呼吸器疾患等

喫煙により、空気の通り道である気道や肺自体へ影響を及ぼすことが知られています。

このため、喫煙は慢性気管支炎、呼吸困難や運動時の息切れなどの症状が特徴的な肺気腫や喘息等の呼吸器疾患の原因と関連しています。さらに歯周病の原因と関連があるという報告があります。

その他の疾患の罹患についての相対危険度

相対危険度	男	女
気管支喘息	1.8	4.0
胃潰瘍	3.4	-
十二指腸潰瘍	3.0	-

資料：健康日本 21

歯周病の罹患についての相対危険度

Shizukuisi (1998)	2.1
Dolan ら (1997)	1.9
Sakki ら (1995)	1.7
Brown ら (1994)	2.7

資料：健康日本 21

周囲の非喫煙者への健康影響について

たばこの煙による健康への悪影響は喫煙者本人にとどまりません。

たばこの煙は、喫煙により直接吸い込まれる主流煙と、火のついた部分から立ち上る副流煙とに分かれます。

そのうち有害物質は、副流煙の方に2～4倍以上多く含まれています。

つまり、たばこを吸わない人でも吸う人の近くにいることで汚れた空気を吸うことになり、健康に影響します。これを「受動喫煙」といいます。

他人のたばこの煙を吸わされる受動喫煙についての健康影響は、流涙、頭痛などの症状だけでなく、肺がんや虚血性心疾患等の疾患の死亡率等が上昇したり、非喫煙妊婦でも低出生体重児の出産の発生率が上昇するといった研究結果が近年多く報告されています。

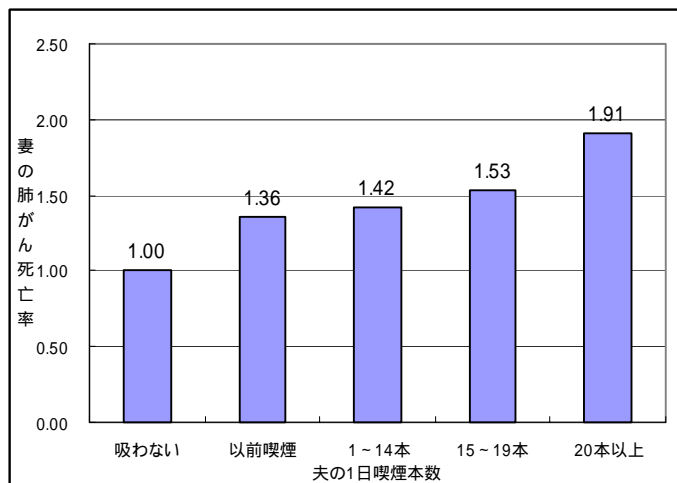
小児では喘息、気管支炎といった呼吸器疾患等と関連があると報告されています。また、乳児では乳幼児突然死症候群と関連があると報告されています。

相対危険度：この資料では、喫煙者が非喫煙者に比べ病気等になる危険度が何倍高いか非喫煙者を1とした時の喫煙者の危険度で表示しています。

受動喫煙（他人のたばこの煙を吸わされること）と個別疾病との相対危険度

個別疾病の相対危険度	相対危険度
肺がん死亡数（US - EPA 報告 1998）	1.19
虚血性心疾患死亡数（Heらによる調査 1999）	1.25

夫の喫煙本数と妻の肺がん死亡率



資料：平山らによる調査(1966-82)

平成15年5月から施行された健康増進法では、「多数の人々が利用する施設等の管理者は受動喫煙の防止に努めなければならない」と規定されました。

多数の人々が利用する施設等には、学校、体育館、病院、劇場、観覧場、集会場、展示場、百貨店、事務所、官公庁施設、飲食店等の他、パスターミナル、金融機関、美術館、博物館、社会福祉施設、商店、ホテルや旅館等の宿泊施設、遊技場、娯楽施設等やバス・タクシーなども含まれます。

妊娠中の健康への悪影響について

喫煙は母体への影響だけでなく、胎児の発育に対する悪影響が懸念されます。

喫煙している妊婦から生まれた赤ちゃんは喫煙していない妊婦から生まれた赤ちゃんに比べて低出生体重児となる頻度が約2倍高くなっています。

さらに、喫煙している妊婦は喫煙していない妊婦に比べ、早産、自然流産、周産期死亡（妊娠28週以降の死産と、生後1週間以内の早期新生児死亡）の危険性が高くなっています。

相対危険度：この資料では、喫煙者が非喫煙者に比べ病気等になる危険度が何倍高いか非喫煙者を1とした時の喫煙者の危険度で表示しています。

妊娠中の喫煙が胎児に及ぼす相対危険度

	低出生体重児	早産	全先天性異常
相対危険度	2.4	3.3	1.3

資料：厚生省研究班による調査(1979)（調査地：全国11ヵ所の大学病院）

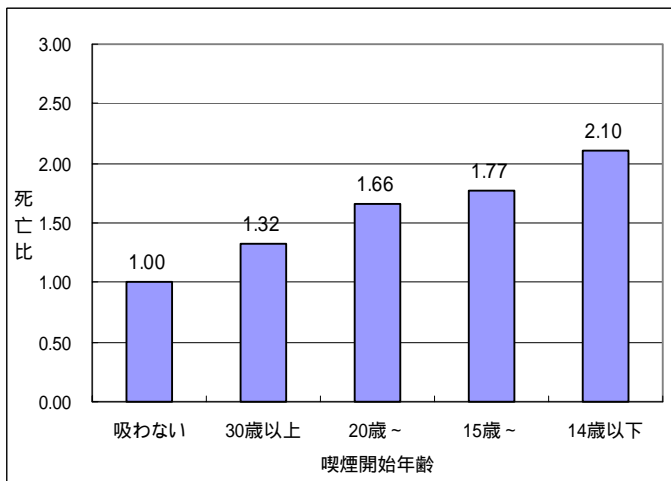
未成年者の喫煙について

たばこを吸い始める年齢が早ければ早いほど、がんや心臓病で死亡する危険性が高くなると言われています。

20歳未満でたばこを吸い始めた人(男性)の肺がんによる死亡率は、非喫煙者に比べて約6倍になります。

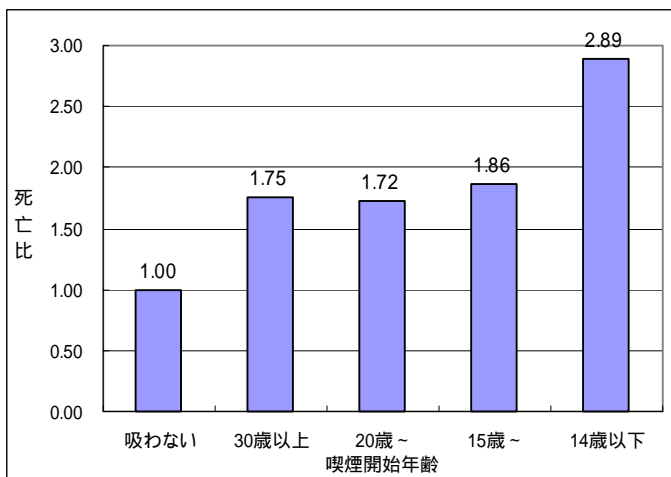
また、「平成10年度喫煙と健康問題に関する実態調査」(厚生労働省)によれば、吸い始める年齢が若いほどニコチンへの依存度が高い人が多くなるという報告が出ています。

喫煙開始年齢別 全がん死亡率比(男性)



資料：平山雄 小児科診療(1986)

喫煙開始年齢別 虚血性心疾患死亡率比(男性)



資料：平山雄 小児科診療(1986)